

7月12日(月曜日)
ユーロ/円
ユーロ/ドル
豪ドル/円

米企業決算発表待ち

9日(金)の主な推移



期間 : 9日(金)午前6時~10日(土)午前6時
※チャートは30分足 日本時間にて表示
出所:外為どっとコム

- ① アジアの各市場での株高を背景にユーロや豪ドルはじり高で推移していたが、欧州勢参入と同時にユーロ買いが加速し、ユーロ/円は112.67円、ユーロ/ドルは1.2723ドルと昨日の海外市場で付けた高値を上回って上昇した。
- ② ドル/スイスの急上昇を受けて、対ユーロでもドル買いが強まるとユーロ/ドルは下落に転じ1.2609ドルの安値を付けた。またこれにつれてユーロ/円も一時112円を割り込み、111.50円まで下落した。
- ③ Nダウ平均株価が引けにかけて上げ幅を拡大した事につれて豪ドル/円が上昇し、77.84円の高値を付けた。6月カナダ雇用統計の予想を上回る強さを受けてカナダドル/円が上昇したことも同じ資源国通貨である豪ドルの上昇につながった。

ユーロ/ドル、ユーロ/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから、円売り、高金利通貨買いの流れ(ユーロ/円上昇要因)
- ・米低金利政策長期化観測に伴う米長期金利の低下(ユーロ/ドル上昇要因)
- ・南欧諸国のソブリン・リスクの緩和(ユーロ上昇要因)
- ・米景気回復に伴う米長期金利の上昇(ユーロ/ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円買い戻しの流れ(ユーロ/円下落要因)
- ・南欧諸国のソブリン・リスク(ユーロ下落要因)

豪ドル/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから高金利通貨買いの流れ(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪利上げ観測に伴う日豪金利差の拡大(豪ドル/円上昇要因)
- ・株価、資源価格の上昇(豪ドル/円上昇要因)
- ・日銀による追加金融緩和観測(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪州中銀による利上げ観測の後退(豪ドル下落要因)
- ・株価、資源価格の下落(豪ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円買い戻しの流れ(豪ドル下落要因)

本日の見通し

本日の予想レンジ

ユーロ/ドル: 1.2580-1.2780ドル
 ユーロ/円 : 111.00-113.00円

本日の予想レンジ

豪ドル/円: 76.50-78.50円

本日から明日にかけてユーロ圏財務相会合・欧州連合(EU)財務相理事会が行われる。欧州版ストレステスト(健全性審査)に関する要人発言が特に注目されるが、既にドイツの大手銀行については合格の見込が伝えられており、ユーロ売りの材料にはなりにくそうだ。一方で米国では今週から本格化する企業決算に注目となる。NY株式市場は決算への期待から底堅さを取り戻しつつあるだけに、決算発表を受けて株価の上昇に弾みが付くかどうかかが焦点となる。最近の米経済指標は景気の減速を示すものも見られており、各企業の業績見通しの下方修正は株安につながりそうで注意が必要であろう。(神田)

本邦参院選での与党民主党の敗北は、12日午前の段階では為替相場に対する影響はほとんど見られていない。週明けの欧米市場では、衆参のねじれ現象という政局混迷を嫌気した円売りの可能性は残されてはいるが、市場の関心は日本の政局よりも米国の経済状況にあると見られ、米国企業決算の発表や、発表を受けたNY株式市場の反応に注目が集まりそうだ。本日は大手アルミニウム製品メーカー・アルコアの第2四半期決算が発表される。(神田)

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 日本時間での表示

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
7/12(月)	26:00		(米)3年国債入札(350億ドル)	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。